

**令和 6 年度 第 1 回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会
会議録**

日 時	令和 6 年 5 月 9 日（木）午後 4 時 30 分～午後 5 時 45 分
場 所	こまきこども未来館 会議室（ラピオ 2 階）
出 席 者	【委員】5 名（※敬称略） 梶田光俊、川尻卓哉、水野一哉、外山貴彦、林文通 【事務局】5 名 多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員（3 名） NPO 法人 10 人村（受託者）（2 名） 【傍聴者】なし
会議資料	1. 次第 2. こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会名簿 3. こまき少年少女発明クラブ指導員名簿 4. こまき少年少女発明クラブ令和 5 年度活動報告（資料 1） 5. R5 年度クラブ員アンケート（資料 2） 6. R5 年度保護者アンケート（資料 3） 7. こまき少年少女発明クラブ令和 6 年度活動について（資料 4）
会議内容	1. 委員長あいさつ 2. 議題 (1) 令和 5 年度の活動実績報告について 3. その他 (1) 今後の予定について
会議要旨	1. 委員長あいさつ 梶田委員長 ・こまき少年少女発明クラブも 3 年目になった。今年度は資料を見ると、新しい企画で秘密基地をつくるということで、こどもたちが喜んでワクワクしながら活動してくれると良い。 - 昨年度の活動報告も踏まえながら、より楽しい企画にできるよう、ご意見をいただけるとありがたい。
事務局	2. 議題(1)令和 5 年度の活動実績報告について ・前期と後期を分け、それぞれ 6 回ずつ活動を行った。参加人数は前期 16 名、後期 10 名。 ・令和 5 年度は、資材提供や講義など地元の企業に協力をしていただく機会が増えた。 ・各 6 回のうち、前半 4 回を個人製作、後半 2 回をグループ製作とした。個人製作は 1 回の活動で 1 つの課題とし、毎回作品の発表の時間を設けることで、こういったアイデアを考えて作り出したのかの共有を行った。グループ製作では、用意された課題の中で自分のつくりたい、挑戦したいものを選び、集まったメンバーがグループになるという形にした。 ・希望者のみの活動として、日本弁理士会に知財授業を行っていただいた。 ・会費は消耗品などの材料費に充てた。 ・クラブ員に記述式アンケートを実施。回答者 11 名のうち 10 名が発明クラブの活動以外でも未来館に遊びに来ていると回答。

	思い出に残っている活動として「屋根をつくったけどこわれた」など具体的な内容があがった。今後やってみたいこととして、今年度前期・後期のグループ製作として取り組んだ、こども参画事業「こまき冒険スライム村」の課題の解決をまたやってみたいとの声があった。 ・保護者アンケートはアンケートフォームより 9 名が回答。発明クラブに申し込んだ動機として、ものづくりや工作が好きなど、やってみたいとこどもたちが参加を希望したという回答が 7 名いた。また、「未来館に来た時に見てこどもに良さそうと思った」という、前回までの様子を見たことで申し込みに繋がっている方もいた。 今後やってほしいこととして、「装置作り」や「仕組みを考えて形にする」など、活動内容に関する要望があった。 発明クラブへの感想として、「学びがあった」などクラブ内容への感想の他に、指導員の関わり方への感謝や、こどもの育成についての応援の声もいただいた。
梶田委員長	<質疑応答> ・グループ製作にかけた時間はどのくらいか。みんなで 1 つではなくグループごとに 1 つの作品が出来上がったということか。
事務局	・1 回 2 時間を 2 回で合計 4 時間。4, 5 人のグループで合意形成を取りながら 1 つの作品を完成させるという形にした。後期は、時間内につくり切れなかった子が自主的に未来館に来て、続きの作業をするということがあり、最後まで完成させたいということのこどもの気持ちを尊重できたと思う。
川尻委員	・協力企業はどのように選んだのか。
事務局	・先に課題が決まっており、市内を中心に、その課題に合う企業を探した。その後、直接アプローチをし、協力していただけることになった。
林委員	・令和 4 年度は年間を通して個人製作、令和 5 年度は個人製作をしてからグループ製作としていた。令和 6 年度も令和 5 年度と同じ工程を採用したのは何か手ごたえ等があったからなのか。
事務局	・未来館、児童館として、居場所づくりと仲間づくりや、合意形成の難しさというところも知ってほしい部分もありながら、より活動の深みが出ると考えた。ただ、令和 5 年度は課題が 1 回で終わってしまうと、時間的にも製作してブラッシュアップをすることなく終わる、というところが課題としてあがった。こども個人の様子ではなくこども同士で関わる様子も見ていけることが、未来館の中で発明クラブをやっている意味ではないかとも考えており、個人製作とグループ製作のどちらもする形にした。 今年度は先にグループを決めて、個人製作をする際も近くにメンバーがいる状態にすることで、「こういった人なんだな」ということを知った状態でグループ活動に入るようにしようという案が出ている。

外山委員	・課題の内容は事前に大人が決めているのか。これまで実際に活動をしてきて、こどもたちが普段疑問に思っていることを開発に発展させることと、大人が提案をしてこどもたちに参加させることへ感じ方などに違いはあるか。
事務局	・令和 5 年度はすべて大人が決めた。初回にシラバスのような形で課題を渡し、2 時間というクラブ活動だけでなく、自宅で、自分はどのようなものをつくってみようか、ということを考えてもらうようにしていた。 小学 3 年生から中学 3 年生と幅広い年代のクラブ員がいる。低学年の子は特に課題意識を持ちにくく、課題を見つけることに時間がかかって実際の製作に入れないように感じている。実際に令和 4 年度の「ビー玉転がし装置」の反省点でもあがった。そういった経緯もあり、大人がつくった課題の中でこども自身が考えられるようにしている。令和 6 年度の後半部分はまだ決まっていないことが多いが、活動していく中でこどもたちの「解決したい」を集めていき、大人がアプローチできることから何か導き出せたら良いと考えている。
事務局	3. その他 今後の予定について ・令和 6 年度の活動について ・目標を「課題をさがす！挑戦する！解決する！」に変更した。令和 5 年度の主体性が不足している面が見られた、失敗が少なかったという反省から、こどもたち目線の目標にした。 ・令和 5 年度と違い、前期と後期で違う内容を計画している。前期は未来の秘密基地をつくるという 1 つの課題を追求していく全 7 回。後期は企業からの課題に対してこどもたちが問題点などを探して、挑戦、解決していくことを想定した全 6 回。 ・初回のオリエンテーションを保護者同席可とした。クラブ活動を理解してもらい、大人に後押しをしてもらうため。 ・公開授業を計画。クラブ員以外の一般参加者も秘密基地づくりに参加できるようにすることでクラブの周知を図りたい。 ・最終の申込人数 18 人（小学 3 年生：4 人、4 年生：7 人、5 年生：3 人、6 年生：1 人、中学 1 年生：2 人、3 年生 1 人）。内 7 人は前年度までに参加経験があり、戻ってこれる仕組みができてきたように感じる。 ・第 1 回こまき少年少女発明クラブ開催の案内 日時：令和 6 年 5 月 12 日（日）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分 場所：こまきこども未来館体験ひろば（ラピオ 3 階） ・第 2 回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会開催の案内 日時：令和 7 年 3 月ごろ（予定） 場所：こまきこども未来館（予定）

林委員	<質疑応答> ・後期の「企業からの挑戦！」はどのようにして課題をもってくるのか。
事務局	・企業から困りごとを提供していただき、こどもたちが課題を探す、それに対してどう調整していくと良いのか、実用性があるまではいかなくとも、プロトタイピングとして一通りのことが検証できるものになるまで製作、改善追及をしていきたいと考えている。まだ未確定な部分が多く、今後みなさんの意見をいただきながら、練っていきたい。
梶田委員長	・すでに経験のある子が固まると少し異質なグループになるように感じるが、グループ分けはどの時期にどんな方法を想定しているか。
事務局	・初回から 3,4 人ずつで 5 グループにランダムに分けてスタートし、個人製作のときも近くにグループの子がいる状態にする。トラブル等があれば調整をしながら、グループ製作に入った際には協力してできる体制にしたいと考えている。
川尻委員	・公開授業はこれまでのクラブ活動でつくってきたものとは全く別のものを当日につくるのか。
事務局	・当初の予定はそうだったが、目的がクラブの周知であると考慮すると、こどもに対する大人の数も限られていることから、別日に実施することも視野に入れている。
梶田委員長	・秘密基地をつくる場所はどこなのか。出来上がった作品を公開授業で見てもらえると良い。
事務局	・2 階の倉庫を想定している。場所を変えての展示も含めて考えていきたい。
水野委員	3 点提案 ・公開授業で大人のやりたい人が大人の凄さを見せつけるのはどうか。 ・企業からの挑戦が終わった後に、企業から「こどもの発想にはびっくりする、敵わない」といった言葉がもらえる取り組みになると良い。 ・卒業クラブ員に経験数によってシールを与えるなどをしたらおもしろそう。
外山委員	・秘密基地をつくるという課題で、こういうことを学んでほしいなど、こどもたちにどういった点に気付いてもらいたいのか。
事務局	・こどもたち課題を見つけてほしい思いがある。わくわくしながら抵抗なくやってみようと思ってもらえるよう秘密基地という題材にした。